

2019年8月11日(日)朝10:10～ 主の聖霊降臨節第10、自由交歓会等
8月第2共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**地上で罪を赦す権威**(6節)

聖書：マタイ 9章1～8節

<口語訳>

新約聖書12～ 頁

マタイ 9章19～8節

<新共同訳>

新約聖書15～ 頁

マタイ 9章1～8節

<新改訳第3版>

新約聖書15～ 頁

マタイ 9章1～8節<塚本訳>

新約聖書88～89頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き
によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
 - ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
 - ◇**マタイ9:1～8**は、「**中風の人**の癒し」と「**中風の人**の**罪の赦し宣告**」を「**御子イエス・キリスト様**」がなさり、**律法学者は、神を冒瀆している**とし、**群衆は、恐れつつも、神を讚美しました。**
- ⇒併し、**マタイ8:1～17**が、**3人の病人(ツァラート、中風、熱病)**、**マタイ8:18～9:8**が、**権威について**で、**風も海も従わせる権威、悪霊を追い出す権威、そして、「罪の赦しの権威」(9:1～8)**が示され、今日の箇所は、**中風の人と癒しが中心主題ではなく、「主なる神の権威」**が、**主題**になっています。
- ⇒すなわち、**罪の赦しの権威**です。
- ⇒それは、**救い主イエス・キリストの来臨の目的**を示すことでした。次週、**取税人マタイ**を招く**救い主**です。**マタイ**は、**すぐ主に従います。**

本論；

◇本日、**マタイ書9章1～8節**から主の**使信**に**思い・心vous**をとめます。

◆**マタイ9章1～8節**；使徒**マタイ**は、**神の御子 イエス・キリスト様**が「**中風**の人の**罪を赦す 権威**(6節)」示し、「**罪を赦す救い主の来臨**」を明らかになさることでした。

◇**1～8節**；塚本訳◆**中風をなおす**

「1 それから舟に乗って(湖を)渡り、自分の町(カペナウム)に来られた。

2 するとそこに、人々が寝床にねている一人の中風の者をつれて来た。イエスはその人たちの信仰を見て(驚き)、中風の者に言われた、「子よ、安心せよ、いまあなたの罪は赦された。」

3 すると数人の聖書学者がひそかに思った、「この人は神を冒瀆している。」

4 イエスは彼らの考えを知って言われた、「なぜ悪いことを心の中で考えているのか。」

5 あなたの罪は赦された、と言うのと、起きて歩け、と言うのと、いったいどちらがたやすい(と思う)か。

- 6 では、人の子(わたし)は地上で罪を赦す全権を持っていることを知らせてやろう」と言っておいて、中風の者に言われる、「起きて寝床をかついで、家に帰りなさい。」
- 7 すると彼は起き上がって、家に帰って行った。
- 8 群衆はそれを見て恐ろしくなり、こんな全権を人に授けられた神を賛美した。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**1～7節**；「それから舟に乗って(湖を) 渡し、自分の町(カペナウム)に来られた」、「人々が寝床にねている一人の中風の者をつれて来た。イエスはその人たちの信仰を見て(驚き)、中風の者に言われた、『子よ、安心せよ、いまあなたの罪は赦された』」と語り、「数人の聖書学者がひそかに思った、『この人は神を冒瀆している』」、「イエスは彼らの考えを知って言われた、『なぜ悪いことを心の中で考えているのか』、『あなたの罪は赦された、と言うのと、起きて歩け、と言うのと、いったいどちらがたやすい(と思う)か』、『人の子(わたし)は地上で罪を赦す全権を持っていることを知らせてやろう』」、「中風の者に言われる『起きて寝床

をかついで、家に帰りなさい』と、「**罪の赦しの権威が中風の人に**」、「『起きて寝床をかついで、家に帰りなさい』」の命令を与え、「彼は」、「起き上がって、家に帰って行った」と、「**中風の人**」は、「**御子イエス・キリスト様に従いました**」。

⇒マルコ2:1～12を見ると、4人の人たちが屋根に穴を開けて、中風の人を主の前に連れて来ました。仲間の信仰も見ておられる。

⇒ルカ5:17～26を見ると、律法学者やパリサイ派の人たちが座って眺めていて、理屈を並べ、批判したのが分かります。

⇒**御子イエス・キリスト様**は、そのような中で、中風のだけでなく、寝たっきりの中風の人を運んだ人々の信仰も評価して下さったのです。

⇒主は、主に従う人々とともにおられ、ご自身の権威あるわざをなさることがおできになったのです。

◇**8節**；「群衆はそれを見て恐ろしくなり、こんな全権を人に授けられた神を賛美した」と、「群衆」は、「主を恐れつつも」、「主を讚美しま

した。」

⇒「群衆」には、忌み嫌われの地ガダラからついて来た人々があり、主の弟子や律法学者も、含まれていたでしょうが、讚美した人々の多くは、カペナウムで合流した者たちです。

⇒彼らは、**罪を赦す権威あるお方**を見て、恐れ、畏敬を感じ、「『子よ、安心せよ、いまあなたの罪は赦された』と語り、『起きて、歩け』の権威あることばに讚美を送ったのです」

⇒「このような権威をお与えになった神」こそ、群衆は、未だはっきり告白できないでしょうが、私たちの罪のために十字架にかかって罪の赦しを地上で与えるお方です。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」にとって、ガダラの悪霊に苦しめられ、叫ぶ人も、4人の仲間に運ばれて、不自由な中風のからだでいる人も、全く同じ罪人であり、罪から解放されたい人々なのです。

⇒「霊的な病」を背負って、苦しみ、思い煩いに悩む人々にも、「起きて寝床をかついで、家に帰りなさい、子よ、安心せよ、いまあなたの

罪は赦された」は、慰めのことばです。

⇒律法学者は、「**中風の人**」が、「**罪の赦し**」を得て、「起きて寝床をかついで、家に帰っても」、「この人は神を冒瀆している」と、言い続けます。彼らには、「**罪の赦しの権威**」が、認められないからです。今の時代も、同じです。神のことばである聖書が、「あなたの罪は赦された」と、語りかけても、自分の主義主張にこだわって、主の権威あることばとして聞けないのです。

⇒「今日御声を聞いたなら、心を頑なにしてはならない」です。

⇒「**地上で罪を赦す権威**(6節)」です。次週の取税人の**マタイ**も、同じです。彼は、すぐ従いました。その**取税人マタイ**が、**使徒マタイ**として、「**権威ある主のことば**」をあかししているのです。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
 - ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
 - ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。
 - ◇**マタイ9:1～8**は、「**中風の人**の癒し」と「**中風の人**の**罪の赦し宣告**」を「**御子イエス・キリスト様**」がなさり、律法学者は、**神を冒瀆**しているとし、群衆は、**恐れつつも、神を讚美**しました。
- ⇒併し、**マタイ8:1～17**が、3人の病人(ツァラート、中風、熱病)、**マタイ8:18～9:8**が、**権威**についてで、**風も海も従わせる権威**、**悪霊を追い出す権威**、そして、「**罪の赦しの権威**」(9:1～8)が示され、今日の箇所は、**中風の人と癒し**が中心主題ではなく、「**主なる神の罪の赦しの権威**」が、主題になっています。
- ⇒それは、**救い主イエス・キリスト**の**来臨**の目的を示すことでした。次週、**取税人マタイ**を招く**救い主**です。**マタイ**は、**すぐ主に従います**。

⇒ガダラで悪霊を追い出し、今、突風に翻弄されつつ、上陸したカペナウムでは、4人の仲間に搬送されて来た中風の人は、寝床をたたんで、起き上がりました。

⇒使徒マタイは、「**御子イエス・キリスト様の罪の赦しの権威**」が、示されたと告げています。

⇒「**地上で罪を赦す権威**(6節)」は、カペナウムだけでなく、偏見と差別のあるガダラでも発揮されました。

⇒今も変わらず、「子よ、安心せよ、いまあなたの罪は赦された」、「人の子(わたし)は地上で罪を赦す全権を持っていることを知らせてやろう」、「起きて寝床をかついで、家に帰りなさい」と、私たちに語りかけておられます。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、今も、天の御座に着いて、大祭司として御国を支配なさるとともに、地上の生活の中でも、聖霊によって、すべての人の心を支配しておられます。

⇒聖霊は、「**御子イエス・キリスト様の心**」そのもので、罪につき、神の義について、啓示して下さっています。**罪の赦しも**、いつでも、どこでも、お与えになります。